新 今昔物語

第1話

市の指定文化財①

石造九重層塔

野崎観音から飯盛山に登る途中のところに、石造九重層塔があります。花こう岩製で、総高は3・3メートルと高いものです。

この塔の最下層の台座部分には、永仁二年（1294年）に主君と両親の菩提を弔うため、入蓮と秦氏によって造立されたことが記されています。この二人がどういう人であるかについては分かっていません。

石塔の造立は、死者の供養を目的として、日本では飛鳥時代から行われるようになり、鎌倉時代になると盛んになります。

この九重層塔は、下から二石目の塔身のところには、種字（梵字）で金剛界四仏が刻まれており、その字の断面がV字型を現す「薬研彫」となっています。また、各層の屋根部分の裏側には段がつけられており、屋根を支える垂木が形式的な形で表現されています。屋根の四方の反りが激しいところは、近畿地方では珍しい形となっています。このような薬研彫や垂木表現は鎌倉時代の石造塔の特徴を示すものです。ただ、本来は上部にさらに相輪があったはずですが、現在はなくなっています。

造立年代が明確な石造の塔は珍しく、造立年の銘が記されているこの塔は、年代を知る基準となる貴重なものです。

（市史編纂委員　岡村喜史）

野崎2丁目所在